

農商工連携と中小企業 —奈良の取り組みについて—

農商工連携グループ

農商工連携とは

- 中小企業者や農林漁業者が互いの有する経営資源・ノウハウ・技術等を活用することで、両者の有する強みを発揮した新商品の活用や販路開拓等を促進する取り組み。
- 農林水産省と経済産業省が一体となって、農林漁業と商業・工業等の産業間連携（農商工等連携）を強化し、地域経済を活性化させる目的。

「農商工連携」の促進を通じた地域活性化①

- ☆経済産業省☆
- 地域の基幹産業である農林水産業、商業、工業等の産業間での連携（農商工連携）を強化し、相乗効果を発揮することで、地域活性化につなげる観点から、農林水産省と一層密接かつ有機的に連携をとり、以下の組織を推進していく。
- 大まかに取り組みを紹介する。

- **地域産品の販売促進・新商品開発の支援**

主に農業者や中小企業者が新商品を開発する環境を整える目的。

- **IT活用による生産性向上・販売促進**

IT技術を活用し、販売を促進、生産・流通の効率化を図る。

- **地域における知的財産の保護強化**

特許、商標(地域ブランド)などに対する理解を深めるためのセミナーを開催し、地方公共団体との連携モデル事業の実施や、産業財産権に関する無料相談会を開催。

- **地域の人材の育成・交流**

地域に貢献する中核的な人材輩出プログラムである。村おこしに燃える若者を発掘・育成を支援。

- **地域産品の輸出促進**

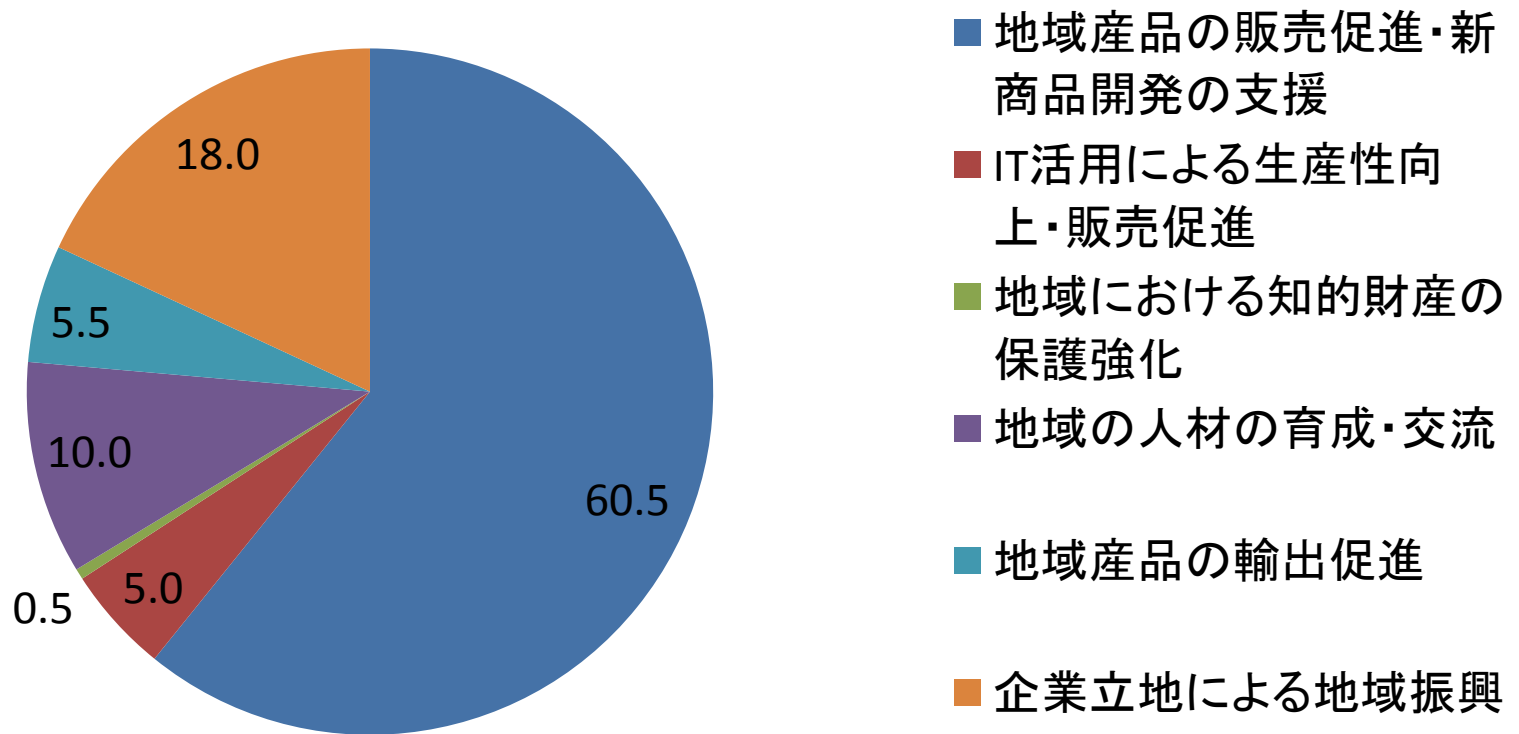
地域産品の輸出促進のための調査の実施。

- **企業立地による地域振興**

企業がより業務をしやすいように、地域が取り組む基本計画の策定や人材育成事業を支援。農商工連携に資する貸工場、菓子事業場などの共有施設を整備する事業を支援。

経済産業省の支援内訳

億円



「農商工連携」の促進を通じた地域活性化②

- ☆農林水産省☆
- 地域の基幹産業である農林水産業、商業、工業等の産業間での連携(「農商工連携」)を強化し、相乗効果を発揮することで、地域活性化につなげる観点から、経済産業省と一層密接かつ有機的に連携をとり、以下の取組を推進していく。
- 大まかに取り組みを紹介する。

• 生産段階における支援

地産地消を促進し、ITや精密農業技術の導入、漁業分野での新規参入を促進し、漁業分野での企業の支援。

• 研究・事業化段階における支援

農林水産業・食品産業の発展や現場の課題に対応した産学官連携による実用技術等の開発を推進。

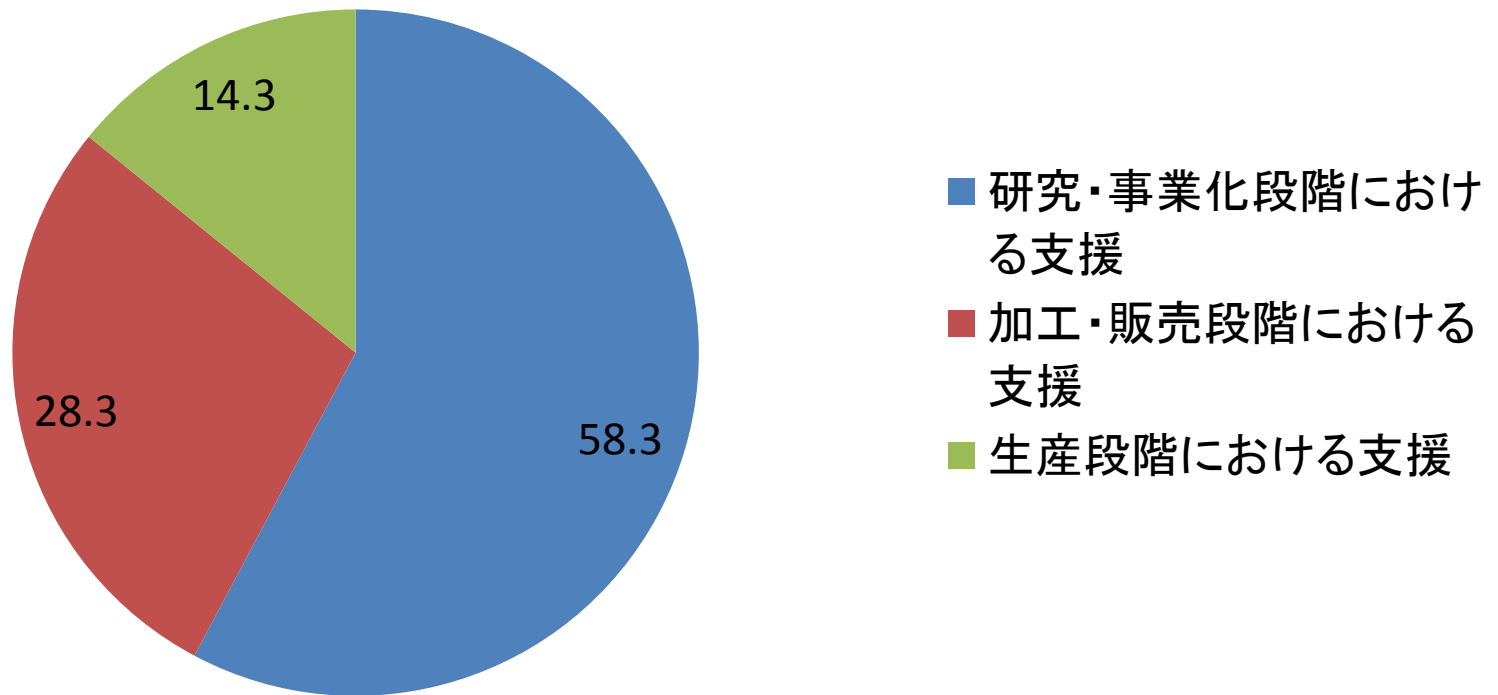
公設試験研究機関、国公立大学等が開発した新品種、新技術を活用し、産地と企業の連携による新食品・新素材の安定供給システムの確立を支援

• 加工・販売段階における支援

地域の食品産業、農林水産業等との連携による「食料産業クラスター」の形成を促進、品質管理体制のためのセミナーなどの支援を行う。また日本食や食材を海外へ情報発信等を支援する。

農林水産業の支援の内訳

億円



- このことから経済産業省、農林水産省両省から支援を受けることができる。
- 新商品開発には金銭的な問題も大きいですが、国が直接的に支援することでより積極的に行動することができるようになる。
- 実際にいくつかの成功事例がある。
例：川越芋を使った日本酒の開発など

訪問調査の実施

- 次に我々は実際の農商工連携を確認するため、訪問調査を行った。
- 奈良県葛城市の道の駅「ふたかみパーク當麻」



奈良県葛城市の道の駅「ふたかみ パーク當麻」

- **ふたかみパーク當麻設立の目的**

地域活性化のため、直売所・レストランを設立し、たくさんの人たちに、お土産を提供する。

- **奈良を選んだ理由**

伝統的な歴史や特産品があるにも関わらず、農商工連携の事例が見当たらない上、あまり活動的ではない印象を持った。歴史や特産品も多いのに、まったく事例がないことを奇妙に感じ、自分たちで探してみようと思ったため。

調査結果

ここには全国でも少なく、奈良県で2つしかない野菜を粉末にする機械があり、それを利用した粉末野菜を販売している。粉末野菜は野菜の成分をそのまま落とすことなく取り込めるため、現代の健康志向ブームもあり、売れ行きは上がってきている。

ふたかみパーク當麻の強み

- 粉末野菜は保存が効くため、季節野菜など粉末にしてうどんや餅などに練りこみ、年中販売することができる。
- レストランの料理にも混ぜているので野菜が嫌いな人でも簡単に食べられ、簡単に野菜を摂取できる。
- 中小企業には粉末野菜を提供し、スナック菓子を作っている。

- ここでは、地元でとれた野菜を使用したうどんやパンなどの体験教室を行い、集客を行っている
- 畿内で道の駅のスタンプラリーを開催し、他の道の駅のPRに繋げて観光サービスの強化に努めている

「農商工連携」の促進を通じた 地域活性化とのつながり

経済産業省の「地域製品の販売促進・新商品開発の支援」の中につながりがある。

☆広域総合観光・集客サービス支援事業☆

農商工連携による体験交流プログラムほか、これらの連携による地産地消の新サービスの提供を推進し、観光・集客サービスの競争力を強化するものである。

今後の課題

- 農商工連携としてはまだまだつながりが少なく、もっとほかの中小企業と連携するべき。
- ふたかみパーク當麻は、奈良県に2台しかないという野菜を粉末にする機械を持っている。つまり奈良県にとってはかなり貴重な機械にあたると言える。健康志向ブームということもあるので、もっと前面にプッシュすれば、新製品開発に利用できる。全国展開を目指せる可能性は十分にある。